



7月号 令和4年6月30日発行

# 荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL911-0149]  
[http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



## 子どもたちの言葉や感性に接して ～子どもとともに成長する教師でありたい～

校長 伊藤 智樹

5月の6年修学旅行、6月の全校遠足、3年森永工場・横溝屋敷見学、土曜参観、5年西湖宿泊体験学習とコロナ禍前の教育活動に少しずつ戻ったように感じます。これも保護者の皆様方の感染予防対策へのご協力とご理解の賜と思います。まだ新型コロナウイルス感染症の終息の見通しはもてませんが、できることを一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。

各学級の学習の様子を見ていると子どもたちから声をかけられることがあります。子どもたちは他校にない荏田小の教育環境を通して様々な気づきや学びをしています。授業中の子どもたちの発言を聞いたりノートの記述を読んだりする機会を通して、校長としてはもちろん一人の教師としても子どもたちの姿から学ぶことが多いです。

- 「校長先生、これ見て。ヤゴが脱皮したときの抜け殻だよ。」
- 「朝顔の葉っぱがこんなに大きくなったよ。」「キュウリ、キュウリ見て！」
- 「田んぼにオタマジャクシがいて、いっぱいあったよ。」
- 「中庭の川にメダカが泳いでいる！」
- 「この私の描いた絵を見て！これは○○だよ」



【子どもたちが話してくれたこと】

- 学校では多数決で決めることはあまり良くないのかなと思っていたけど、横浜市会や国会は多数決で決めている。
- 少子高齢化がこの30年間で更に進んでいる。国や市の税金は大丈夫かな。



【6年社会科政治単元学習時の振り返り記述から】

6年の政治単元は私も内容の一部を授業しました。上記の子どもは日常の学校生活を通して多数決のメリットとデメリットを感じ、国会や市会も同様なのではと考えている姿に素晴らしいものを感じました。この考えをもとに学習内容を深化させることも可能です。

私たち教師は、子どもに教え子どもを育てることを職業としています。授業中に子どものつぶやきや発言を聞きながら、『そのような見方もあるのか』『そのような考えは予想もしていなかった』と教師が気づくことがあります。これは教師が子どもから教えられる場面です。教師は子どもから教わったことをもとに新たな学習展開を考えたり、次の指導に生かそうとしたりします。



また、子どもの思いや願い、時にはつまづきに接して、教師は指導方法を工夫・改善しようと努力します。前述の子どもから教わったことと同様、教師が子どもに育てられることを意味しています。

子どもたちの実態や状況に応じた指導助言をする役割が私たち教師にあります。その教師自身も子どもによって支えられています。子どもから学ぶ謙虚な姿勢がないと、教師の成長はないと思います。**この教師の学びこそが教師の存在意義であり、教師という仕事の醍醐味**であると私は思います。子どもに感謝をしながら教師も一緒に育っていくという視点を持ち、子どもとともに育っていける荏田小学校でありたいと思っています。

引き続き子どもたちの成長に向けて教職員一同力を合わせていきたいと思っています。